

## 平成 27 年度第 7 回 京都市市民参加推進フォーラム 会議録

■ 開催日時：平成 28 年 3 月 15 日（火） 午後 5 時 30 分～午後 7 時 30 分

■ 開催場所：中京区役所 4 階 第 1 会議室

■ 議題：

（1）第 2 期京都市市民参加推進計画の改定について

（2）「職員のための市民参加推進の手引き（市民活動編）」について

■ 報告事項：

（1）新たに設置された附属機関等について

■ 公開・非公開の別：公開

■ 議事内容

【出席者】

市民参加推進フォーラム委員 10 名（永橋座長，竹内副座長，石井委員，川島委員，杉山委員，高田委員，西村委員，野池委員，樋口委員，壬生委員，）

◆ 総合企画局市民協働政策推進室

淀野市民協働担当局長，北川市民協働担当課長，山下市民協働担当係長，黒田

◆ 株式会社地域計画建築研究所

戸田，嶋崎，大河内

【傍聴者】

◆ 5 人

【特記事項】

◆ 動画共有サイト YouTube（ユーチューブ）による会議のインターネット中継を実施

【内容】

### 1 開 会

<淀野局長>

ただ今から、「平成 27 年度京都市市民参加推進フォーラム第 7 回」の会議を開催する。本日はお忙しい中をお集まりいただき，感謝申し上げます。

本日は室長の小田が市会の関係で欠席になったので，私が司会を務めさせていただきます。

委員の出席状況は，兼松委員，芝原委員，初田委員，林委員がご欠席，野池委員と樋口委員は遅れて来られると伺っている。

（資料確認）

この会議については，いつも通りに公開すると共に，インターネットの動画配信サービ

スを利用した生中継も実施しているのでご了承願いたい。

それでは、以後の議事については永橋座長にお願いする。

## 2 議事

<永橋座長>

3月も半ばとなり、本日が今年度最後の全体フォーラムである。

本日は、2年間検討してきた第2期京都市市民参加推進計画の改定版の最後の確認が大きな議題になる。もう1つは後ほど、竹内副座長より提起されると思うが、「議員のための市民参加推進の手引き（市民活動編）」について議論していただく。このように、大きくは改定版の確認と手引きについて議論を進めていく。

それから、新たに設置された付属機関等について、京都市で設置する審議会等がガイドラインに基づいて公開されているか、公募委員をどれだけ募っているかをチェックすることもこのフォーラムの大事な役割なので、この3点について議論していく。

本日は、全体会場は19時30分までだが、上記3点の議題について19時過ぎを目途に検討を進めたいと思う。

### ■ 議題（1）第2期京都市市民参加推進計画の改定について

<永橋座長>

それでは、まず、改定版について事務局がタイトな時間で多くの作業をしていただいたと思うので、資料1について説明をしていただく。

<北川課長>

第2期京都市市民参加推進計画改定版は、どうにか案をまとめることができた。この間、委員の皆様には積極的なご意見を多数頂き、改めて感謝申し上げたい。

まず、表紙から見ていただきたいが、表紙もいろいろと内部で検討し、前回の会議の時も案を少し見ていただいた。最終的にこのような形で人の動きが分かるもの、子どもを含めて多様な方たちが参加しているイメージの写真とデザインを提起させていただいた。

それから、パブリックコメントについては資料を添付していないが、前回どのような意見があったかということで、概ねABCDの分類について報告させていただいた。もう一度内容を精査して、実際に意見を反映するものをどのように扱うか、ABCDをどのように位置付けるかを再度確認した。

意見数は334件あり、そのうち意見を反映すると分類したAが98件、すでに骨子の段階で趣旨が書かれているもの、あるいはその趣旨に賛同するという意見が113件、今後の計

画推進の際には参考にすると文類したCが77件、その他、市民参加推進計画には直接関係しないけれども市政運営等で参考にさせていただき意見が46件という内訳になった。いわゆる骨子、超概要版の段階でパブリックコメントを実施したこともあり、他の計画と比較して、実際にこの中に意見を盛り込めた部分がたくさんあったのではないかと思う。

資料1については、全体の構成等は前回のフォーラムの会議で説明したものとほぼ変わりが無いので、記載の仕方等について、こちらのフォーラムで頂いたご意見等も踏まえて工夫をした点等を説明させていただく。

(資料1について説明)

<永橋座長>

それでは、ここで委員の皆様から意見や質問をいただきたい。

#### ◆ 全体像における施策の関係性について

<永橋座長>

まず、私から3点ほど述べたい。

P16~17の見開きについて、現計画を2年前に見直した時にヒエラルキーがどうなっているのか、方針と施策と事業がどのような上下関係になっているかを把握することが難しかった。そういう意味では、今回の改定版の全体像についてP16~17は非常に重要である。

そうすると、例えば「基本方針2」で「フェーズ1」「フェーズ2」「フェーズ3」のところに●で書かれているのが実は施策で、「基本方針1」は「市民との情報共有の推進」が恐らく「施策1」である。そうであれば、「目指す未来像」があり、それを実現するために大きな方針が3つあって、それぞれ施策があるけれども、その施策は1つ1つ別々ではなく、それぞれの方針の中でフェーズ、つまり局面で括られる。それを示すためには、●は「施策1」「施策2」～とナンバーリングする必要があるのではないか。

そうすると、これは少しずれている。例えば「基本方針2」の「フェーズ1」は「施策4」「施策5」「施策6」で、「フェーズ2」は「施策7」「施策8」になるが、実は「フェーズ3」の最初の●は「施策9」ではなくて「フェーズ3」のタイトルである。これからフォーラムでこれを生きたものとして扱ったり、あるいは2年後、3年後に第3期計画の改定を始めたりする時に、この改定版は何だったのかということを確認するために、全体像の中でそれぞれ「目指す未来像」と「方針」と「フェーズ」と「施策」の関係を掴むためには、1対1の対応にした方が良くと思うので検討していただきたい。それが1点目である。

#### ◆ 「トピックス」について

2点目は、P20に「トピックス」があるが、言わば用語解説で、ここは「オープンデータとは何か」ということの説明だが、「トピックス」というタイトルを見ると何なのかと思うので、「用語解説 オープンデータとは」という表記にした方が良いのではないかと。P26は「用語解説 ユニバーサルデザイン・磁気誘導ループ」とした方が分かりやすいと思う。

#### ◆ 「基本方針」の位置づけと表示について

これもヒエラルキーの問題だが、例えばP18に「基本方針1」があり、P23に「基本方針2」があって、「基本方針3」が出てくるのがP35である。方針を色分けしてあるのは1つの工夫だが、P23の「基本方針2」は埋もれてしまっているような気がするので、見た目的にも「基本方針」の1, 2, 3は大きくした方が良いと思う。これは上のラインを揃えていると言われていたが、「基本方針」は「将来像」の次のカテゴリなので、そういう意味では大きな枠組みであることを示した方が良いと思う。

他にご意見はないか。

未だかつてないほど多彩に色を使っているが、デザイン的にはどうなのか。

#### ◆ 色使いについて

<竹内副座長>

座長が構造に沿って話をされるので、どうしようかと思っていたが、事務局と地域計画建築研究所（アルパック）が苦しみながらここまで作られたのが分かるし、色を使って印象に残るものを目指しているのも分かった。

ただ、さらに言うなら、次はマイナスのデザインをしていただきたいと思う。座長が指摘されたようにP16～17の図が肝であり、これをどれだけ意識してもらえるかということが大事である。市職員がこれを意識して、今自分が関わっている事務事業がどの部分なのか、どこからどこに移ろうとしている段階なのかということを認識してもらえるかどうか、これからの5年間で大事になると思う。

そうであれば、これに関わる場所は同じ色を使ってほしいが、他のページは色を削ってほしい。

例えば、P14は今までの計画と今回の改定の違いを示しており、これは前の計画をよく分かっている人や記録としては必要だが、あまり意識する必要はないので、もっと色を落としても良いのではないかと。

あるいは、P62以降の意見集約の部分はカラフルでなくても良いのではないかと。

P61はフォーラムからの提言がそのままこの図につながっていることが色で分かるようになっていて、もう少しはっきりと同じ色を使っても良いのではないかと。

私たちの感覚は、インターネット等を使ってクリックすると次に展開していくことに慣れてしまっているのです、そういう感覚に近い紙面づくりが求められていると思う。したがって、1つ1つの施策や、それを分かりやすく紹介する取組事例や、そこに出てくる用語の解説という組み立てはここでかなり整理されたし、よく読んでもらえば分かってもらえるところまで来たと思うが、よく読む手前でイメージがつくようなことができるとうのが希望である。

<永橋座長>

他のご意見はいかがか。ある程度ご意見を頂いてから、事務局のコメントをいただきたいと思う。

#### ◆ 言葉の整理について

<竹内副座長>

前回のフォーラムで、壬生委員が「視点」という言葉について、違う意味なのに同じ言葉が使われていると指摘されたところからかなり整理が進んだと思うので、それが上手く反映されているかどうか伺いたい。

<永橋座長>

「フェーズ」という言葉も工夫をしていただき、京都市自らが率先して動くことと、市民参加ということで言えば市民の動きも両輪と考えると、市民にとっての「フェーズ」はどうなのか、あるいは京都市政にとっての「フェーズ」はどうなのかというように分けられたのは、これからこれを使う上で分かりやすくなったと思う。

<壬生委員>

「視点」も「ポイント」も分かりやすくなって、どこに何が書いてあるかを読み手がすぐに分かるように修正していただいたと思う。

ただ、いくつか気になる点がある。

1つ目は、P15の「推進施策」の図で、「基本方針1」～「基本方針3」の内容を見ると、「基本方針2」「基本方針3」については「フェーズ1」～「フェーズ3」の見出しを付けた上で、例えば、「基本方針2」の「フェーズ1」なら「市民の関心を市政への参加につなぐ機会の充実」という書き方になっているが、「基本方針1」は「基本方針2」「基本方針3」とは少し性質が違うので、これは何だったのかと次のページを探さなければならない。ここに「施策」を入れると、「フェーズ1」と「施策」は何が違うのかと混乱するから外され

たのかと思うが、座長が指摘された体系を意識するところと合わせて工夫できると良いと思う。

もう1つは細かい話になるが、P18の図で「基本方針1 3つの施策の関係性」を示されているが、「施策1」よりも「施策2, 3の前提・土台」の方が目立ってしまっていて、「施策1」と「施策2」「施策3」との関係が分かり難くなっていると思うので、できれば「施策2, 3の前提・土台」のフォントを落とすか、括弧を外す等して、「施策1」がもう少し目立つような工夫をしていただければと思う。

<永橋座長>

他にご意見はないか。

今までのところでは、全体の構造をできるだけ伝えやすいものにしたいという思いからの指摘があったが、事務局からコメントはあるか。

<北川課長>

まさに我々はテキストベースで作業を行ってきて、それをデザインに落とすことができたところであり、皆様のご指摘はもったもたと思う。

非常にカラフルで、色で関連性の意識付けをするコンセプトは良いと思うが、確かに少しくどいと思うところもある。

それから、座長からご指摘があった全体像も、「基本方針2」「基本方針3」は個別の施策を書いているにも関わらず、「基本方針1」は趣旨の説明が入っている等、その点が揃っていない。それが施策であることも書いた方が良いというご指摘もなるほどと思うところがある。

その後も皆様のご意見を踏まえて、デザイン面に関してはもう一工夫して、より見やすく分かりやすいものにしていきたい。「トピックス」や箱書きについても検討させていただいて、何とか今月中につくり上げたい。

#### ◆ フェーズのタイトルと内容の不一致について

<川島委員>

市政の参加のフェーズと市の施策のフェーズを分けてP23とP35にしているが、P16の図では「基本方針2」は「市民の市政への参加のフェーズ」とタイトルがついているのに、P23は「市民の市政への参加のフェーズ」の内容ではなくて、市の施策のフェーズの内容が書かれている。分けたためにタイトルと内容が違っているのはどうしたら良いのか。

<北川課長>

確かに、市民のフェーズと市の施策のフェーズが並列の書かれ方をしているの、どちらなのかと思うところがあるが、実際にそれぞれのタイトルについては施策のフェーズで構成しているので、そういう意味では、施策のフェーズでまとめる形で良いのではないかと思う。

むしろ、市民の市政への参加のフェーズと市の施策を実施する側のフェーズを並列にするのではなく、メリハリをつけて、市民のフェーズに対応して市の施策のフェーズがあるという見せ方ができないか、検討しても良いか。

<永橋座長>

表の上がその説明で、市民のフェーズが3つあって、それに対して京都市行政が行うことを右側に書いているが、この表ではそれが並列になっていて分かり難いので、これを切り分けるということである。実際にここに入るの「市が何をするのか」ということであり、両面あるが、まずは市の職員に見てもらって、それぞれが自らの職能を果たすための計画として、あくまでも市が何を推進するのかということをメインに置くものである。しかし、その一方で市民のフェーズはどうかということがあるので、これを切り分けて表現していただきたい。

これもデザイン的な工夫になるが、中身とそれをどのように見せるかということは大事なので、その点は工夫をしていただきたい。

他はいかがか。

◆ 「みんなごと」の説明について

<永橋座長>

以前、高田委員から「みんなごと」の説明をもう少しきちんと整理した方が良いという厳しいご意見があったが、それがP25 辺りに記載されている。それについてはどうか。

<高田委員>

これは変わっているのか。

<北川課長>

「自分ごと」と「みんなごと」の間にはまだ距離があるというご指摘を頂いたと思うが、確かに、そこは十分には書けていないかもしれない。

<永橋座長>

参考資料2の会議録のP15の高田委員の発言にある。

<竹内副座長>

色とフォントで「みんなごと」という言葉が沈んでしまったのではないか。

市長が作った言葉なので、一般的な言葉だと思って使わない方が良いという趣旨であり、使うのであれば、皆が納得できるような説明が必要だという話だったと思う。

<北川課長>

いきなり「自分ごと」「みんなごと」と書くと分かり難いが、その前に「『ひとごと』ではなく」という言葉を補うと印象が変わる。そこで、説明では必ずその前に「『ひとごと』ではなく」という言葉を付け加えるようにしている。

<永橋座長>

これについては、後ほど高田委員から厳しいご指摘があるかと思う。

表紙の写真はどうか。下の写真は、みてすぐに樋口委員だと分かるほど存在感が凄いが、樋口委員はいかがか。

<樋口委員>

大丈夫です。

#### ◆ 「基本方針」の関係と配置について

<樋口委員>

前回欠席したので、YouTubeで会議の内容は確認した。

P15の表とP16は基本的に同じだが、左側から「基本方針2」「基本方針1」「基本方針3」と並んでいるのはなぜなのか。普通は左から右に見ていくと考えると、「基本方針1」が真ん中にある意味は何なのか、2, 1, 3の順に並んでいるのは違和感がある。

また、P16~17の「計画を着実に進めるための推進体制」が「基本方針1」に埋もれているのも違和感がある。P15のようにこれが下支えになって3つの方針を押し上げているという感じであれば、P16~17の図はイメージが少し違うと思う。

P16~17の「目指す未来像」が小さくなっているのもイメージが違う。全体にわたっている方がバランス良い。左右の空白が気になるので挿絵が入るなら良いが、それならばP15の表に合わせる方が見た目的にも良いと思うし、左から「基本方針1, 2, 3」の順に並べた

方が見やすいのではないか。P16～17のように「基本方針1」が上に上がっているのが正解であれば別に良いが、どれも欠けてはならない内容なので、並列で考えるなら同じ並びの方が良いのではないか。

<永橋座長>

これについて西村委員はどう思われるか。全体の把握という意味では大事だと思うので、樋口委員のご指摘も踏まえて、西村委員の印象を伺いたい。

<西村委員>

「基本方針1」が「市民との未来像・課題の共有」なので中心であり、周りを見回すような位置づけで未来像が真ん中にあるのは理解できると思う。確かに数字が2, 1, 3という並びになるのは普通の感覚では違和感があると思うが、中心に「市民との未来像・課題の共有」があるのは構わないと思う。そして、下支えの推進体制が下にあるという形になっている。

P16～17の図も「目指す未来像」はもう少し左右に伸ばして大きくした方が良いと思う。

<永橋座長>

杉山委員はいかがか。

<杉山委員>

図を使って分かりやすくしようという意図は伝わってくるが、よく読んでよく考えなければ分かりづらいと思う。「フェーズ」という言葉も長く議論されてきたが、まだ馴染がないので、「局面」と括弧書きされていて、よく読むと分かるような感じである。

したがって、いろいろな意見が出たように、図や並べ方を整理すると、もっとシンプルで分かりやすくなると思う。

<永橋座長>

P15の図は右脳を働かせるが、P16～17は左脳を使うので、もう少し右脳でイメージできるようにP15の図が作られたと思う。ところが、P15とP16～17はデザインが違っているので、同じものだというイメージが掴めない。

また、P23で「フェーズ」の角丸の四角形の図も、先ほど竹内副座長がマイナスのデザインと言われたように、統一するかシンプルにした方が良いと思う。立体的にするならP15も同じようにする等、同じ形にすることが大事である。

<淀野局長>

そういう意味では、P15の図の方が正しいように思う。「基本方針1 市民との未来像・課題の共有」は中心になる部分なので中央に位置する。ただ、それは決して突出するものではなく、「基本方針2」「基本方針3」とは横並びであるし、かつ「基本方針1」が基盤となるという意味で、それを支える「推進体制」が下にある、さらに矢印の向きとしては「目指す未来像」が全部にかかっているという、この図の関係が正しいと思うので、この図に揃えた形にした方がよいと思う。

<永橋座長>

局長が方針を示されたが、そういう形でP15のイメージで全体を統一するということがよろしいか。野池委員から意見はないか。

<野池委員>

図としての見やすさ、位置づけの分かりやすさではP15の図が、今の説明を聞いていても、今までの議論からしても意味が通るのでよいと思う。

<永橋座長>

そうすると、P15の図の「基本方針1」で「市民との情報共有の推進」が「施策1」になるので、これは先ほど壬生委員がP18を工夫してほしいと言われたところだが、統一して同じ形にしなければならない。

<淀野局長>

P18の図の丸い下地は「施策1」が全体を包含するような感じなので、外枠に使う方がよいかもしれない。そして、「施策2,3の前提・土台」は下支えするように左右に広げてはどうか。

<永橋座長>

それでは、そのような方向性で事務局に検討をお願いしたい。

竹内副座長は関与されるか、任せられるか。

#### ◆ 配色について

<竹内副座長>

形は今皆さんが言われたようになると思うので、お任せして良いと思うが、色の意味の問題があるような気がする。色合いと「基本方針1」「基本方針2」「基本方針3」のマッチングが違うような気がする。それは自分の感覚なのか、色の持っている意味なのか、悩んでいる。

<永橋座長>

それは共有したいので、もう少し教えてほしい。

<竹内副座長>

これが前回出された時に、最初は「視点」という言葉に目が向いたが、全く同じものでもイメージできるような気がする。形はこちらに統一するとしても、モノクロでイメージできるように思うので、赤・緑・黄の配色は違うような気がする。それを全部差し替えるのは非常に厳しいと思うが、施策や理念が表現しようとしていることと色の意味がもう少し近い色を選んだ方が、容易に理解できるような気がする。ただ、今はどの色が良いのと言えないので、もう少し時間を頂きたい。

<永橋座長>

この中にユニバーサルデザインという言葉があるが、色の区別がつかない人についての観点はどうか。そこは大丈夫なのか。

<北川課長>

色弱の方の場合、配色によっては見え難い場合があるが、それは対応している。フォントについてもユニバーサルフォントにしている。

<永橋座長>

「トピックス」にあったUDフォントで書かれているということである。

それでは、色については、事務局と竹内副座長で検討していただきたい。

石井委員は、他に気付かれた点はあるか。

#### ◆ 実行力のある計画とするために

<石井委員>

この冊子が職員に配布された時に、例えば、区役所の方はこれを読んで「市はそうするのか」と思い、本庁の人たちこれを読むと、係長は「課長はこういうことを考えているの

か」と思い、課長は「局長はこういうことに基づいて取り組んでいるのか」と思うだけで終わるのか、全体的に皆に意識をしてもらわなければならないのか、それが読んでいて見えにくいと感じた。

その中で実際に、例えばここに、本日の後の議題の資料である、新しく設置された附属機関の一覧が出ているが（注・資料2）、市民公募委員を選任しない理由が、ほぼ「専門知識が必要なため、入れることが困難である」となっている。困難であることは最初から分かっている、分かった上でやろうとしているのに、公募しない理由が「専門知識が必要である」「公募委員を入れることは困難である」と言われてしまうと、いくらここに「市民参加」と書かれていても前に進まない。

この改訂版を作ってもそうなるのかと思うので、本気でやる姿勢として、これから書かれる市長あいさつで、誰に読んでもらいたいのか、誰がこれを推進すべき主体であるのかということをしつかりと打ち出さなければならない。せっかくこのように議論して作っても、もらった人が「誰かがやるのだろう」と思ったのではもったいない。その点が一番気になっているところである。

#### <永橋座長>

この後の資料も見ていただいて、多くの附属機関で市民公募しないとされているが、そこを変えなければならないのではないかと、それを変えていく上でこの計画が実行力のあるものであってほしいという提議であり、大事なポイントである。

これに関連して、ご意見があれば伺いたい。

計画を“絵に描いた餅”にしないで、本当に生きたものにするためには、まず市民協働推進室が各職域での研修等でこれを使うとか、あるいは市民参加推進フォーラムでの市職員を招いた研修やワークショップ、また、手引き等で地道に続けていくことが大事である。

審議会等もすぐには変わらないけれども、このフォーラムの中でガイドラインを作って、事務局は審議会ごとにある見識を示されていて、同じ行政の中だけでも他の部局に対して、言葉は穏やかながら「それで本当に良いのか」というやり取りをしている。それがとても大事であり、その一翼をこのフォーラムが担うことが改めて大事だと思う。

事務局としても、いかに他の部局に対して、これをそれぞれ「ひとごと」ではなく「自分ごと」としてもらおうかということが課題になっていると思う。

そういう観点では、第5章の推進体制について、我々の方ももう少し議論をしても良かったかもしれないが、「取組1：各局区・各職場における市民参加推進のマネジメント体制の強化」や「取組2：職員の市民参加推進に対する意識の向上と能力開発の計画的な実施」

とあるように、庁内でこの計画を「ひとごと」ではなく「自分ごと」「みんなごと」にしていくということを今回は強く打ち出している。

それについて、局長はどのように考えられるか。

<淀野局長>

石井委員のご指摘は全くそのとおりだと思う。この間、真摯な議論を頂き、良いものにしたという思いが結実したと思うが、それを市職員がきちんと受け止めて、ここに書いてあることを実行するという思いを持たなければならない。それが伝わらなければ、これまで積み上げていただいた思いが達成できないと思うので、それは将来的にしっかりと取り組んでいきたい。

<永橋座長>

来年度もこれからもフォーラム主催の市職員を招いてのやり取りをと思うが、人数は30～50人くらいだが、参加された方は大事なものに気付かれるので、そういうことは大事だと思う。100人を動かすにはまず3人が動くという話があるが、決して大多数が動くから物事が変わるのではなく、物事を変えるためには、まず3%が動くとして14%が賛同し、合計17%が動くとして残り83%の半分以上が支持してくれるようになる。つまり、少数から始められるのだから、その動きをきちんと持続していくことが大事である。この議論はこれからも続けたいし、この場でなくてもどこでも同じである。

他にご意見はないか。(意見等、なし)

#### ◆ まとめ

<永橋座長>

それでは、全体の構造についてはP15の図を基本にデザインを揃えていただく。また、「トピックス」等の細かい文言についての話や、「基本方針」をもう少し際立たせるとか、施策とヒエラルキーが1対1になるようにするような工夫をしていただく。今回やっとテキストベースでできて、デザインについては洗練させ、ブラッシュアップはこれからということである。色合いについては事務局と竹内副座長で相談していただきたいと思う。

他はよろしいか。(質問、意見等、なし)

#### ■ 議題(2)「職員のための市民参加推進の手引き(市民活動編)」について

<永橋座長>

それでは、関連して2番目の議題になるが、「職員のための市民参加推進の手引き（市民活動編）」について、まず竹内副座長から説明していただく。

#### <竹内副座長>

提起というよりもお詫びになる。昨年3月末に皆さんに「ここまでのものが作り上げられたので、あとはデザイン的な整理と文言の確認をして今年度のどこかで計画改定の議論をしながらリリースする」という報告をして終わったので、本当は今年度のどこかで発表されなければならなかった。しかし、事務局も私も、かなり整理をして、あとは目次を付けて、文字の間違い等を確認してイラストを入れたら出せるところまでになったと思っていたが、計画改定の議論の方に力を注いでしまってそこで止まっていた。

それで、今これを出すことは不可能ではないが、計画の改定版を出すと、それを受けてもう少し書きたいとか、言葉遣いを変えたところ等が反映されていないものを出してしまうことになる。そのために非常に悩み、昨年、部会の中で活躍していただいた皆さんには申し訳ないし、部会長として自分の力不足や見通しの拙さを痛感しつつ、一旦お蔵入りにさせていただけないかというのが提起である。

計画の改定版は、主に市職員の方々が読んで仕事の中に活かしてもらうためのものだが、フェーズという意味では市民側と市職員側とが表裏一体なので、これを市民側が読んで「自分たちならもっとこのように表現する」とか「ここをもっと手厚くしたいと思っている」ということを言いながら知らせる活動が必要になる。そういう方向の中で市職員に伝えたいポイントを新たに拾っていく中で、今までの議論も活かしていきたいというのが私の感想である。それについて皆さんからのご意見を伺って、フォーラムとしての結論を出したいと思う。

#### <永橋座長>

前回の議事録のP17で、これは市職員が読むべきものであり、市民側から見た時に「こういうことを大事にしたい」ということを伝えるものが必要ということで、市民普及版を作ろうという話になった。

一方で、第2期計画について、どのように市職員が市政参加や市民との協働を理解していくのかということについて手引きを作ってきたが、その手引きをお蔵入りにすることで、改定版の市民普及版を作ることに力を注いで、そこに途中まで作ってほぼ完成している手引きのエッセンスを盛り込んでいくという竹内副座長からの提起である。

手引きがお蔵入りになるのは、少し寂しい気持ちがある。

<川島委員>

全面的に変えなければならないほど、この計画は根本から変わったとは思わないので、ある程度修正するだけで良いのではないか。

<永橋座長>

川島委員はそのようなご意見である。今年度から参加されている壬生委員や樋口委員等は手引きを見たことがあるか。

<樋口委員>

あるのは知っている。

<永橋座長>

兼松委員は面白いと言われていたが、どうなのか。西村委員も一緒に考えられたが、いかがか。

<竹内副座長>

この中では、西村委員、野池委員、川島委員、林委員、初田委員も一緒だった。

<永橋座長>

川島委員は、あそこまでできているから手直ししてはどうかというご意見である。

野池委員はいかがか。

<野池委員>

内容を忘れかけているところもあるが、先ほどからこの計画も含めて職員の方々にきちんと使ってほしい、伝えていきたいということを話していたので、できれば残した方が良いのではないか。元々の経緯はその前段であるべきものだったし、時間がもう少しかかるかもしれないが、あまり大きく変える必要はないと思うので、今のエッセンスも入れた職員版を作る必要があるのではないかと思う。逆に止めるよりも、きちんと残しておく必要があると思う。

<永橋座長>

西村委員はいかがか。

<西村委員>

エッセンスを加えて作るのは賛成だが、私自身が委員の任期を終えるのに無責任なこと  
は言えない。

<永橋座長>

後は任せると言っても良いのではないか。私はそう言う。

<西村委員>

それで良ければ、作った方が良くと思う。

<永橋座長>

他の方はいかがか。思い出していただきたいが、Aさん、Bさん、Cさんという職歴の違  
う方々が市民参加で自分の経験等も照らし合わせながら問答形式の対話の中で気づくなど、  
1つのビルディングロマンスのようになっており、あれはあれで日の目を見せたい気はする。

本体は本体で良いが、きちんと表現できなかったと思うところが1つある。施策が全部  
で20あり、施策1つに事業をぶら下げて、その施策ができたか、できないかということだ  
けで判断してしまうが、敢えて「フェーズ」という括りを付けたのは、実は20の施策が1  
つのプロジェクトをする上ですべて必要だからである。そういう議論があったが、それが  
今回は表現し切れなかったので、手引きの中に「1つの施策に1つの事業をぶら下げれば良  
いという話ではないよね」という会話を入れて、「改定版が出たらしい」「『フェーズ』とい  
うのがあるけれど、どういうこと？」という会話も入れてほしいと思っていた。

私としては、仕事を増やしたまま立つ鳥跡を濁しまくって出て行くようだが、それがで  
きると素晴らしいと思う。それは市民が見ても面白いと思う。市民普及版は兼松委員が作  
られると言われていたので、それは兼松委員に頼んで、手引きの方は引き続き作成してい  
ただけないか。OBとして協力させていただくので、日の目を見せてほしい。

北川課長も来年度はどここの部局におられるか分からないが、一市民として関わられるは  
ずだし、それが出たら、高田委員が京都新聞で「こういうものが出た」と取り上げてくれ  
るはずである。兼松委員がおられたら「僕もやる」と絶対に言ってくれると思う。

ある程度できているところはあるが、壬生委員はどう思われるか。

<壬生委員>

市職員がこれをどこまでしっかりと読んでくれるかという、まだハードルが高い方も  
おられると思うが、会話形式なら読もうと思う人も増えるのではないか。

<永橋座長>

実は、あれを作ったからここで「フェーズ」という考え方が出てきたと思う。

<川島委員>

Aさん、Bさん、Cさんという行政の動きと窓口に来たおじいさんの動きが表裏で、最初、窓口知らないおじいさんが来て慌てるところが「フェーズ1」で、そこから進んでいく。

<永橋座長>

それでおじいさん自身が活動の輪を広げていくということで「フェーズ3」に移っていく等、そのような流れになっている。あれがあったから、ここにつながっているのだから、そこに力点を置いて作ってはどうか。

<竹内副座長>

北川課長は協力してもらえると分かっているが、山下係長は大丈夫か。

<北川課長>

1つ提案をさせていただきたい。事務局と部会のメンバーの方々とやり取りをして、中に入れるテキストの情報はかなり練り上げられたと思う。結局、これが前に進まなくなったのは、どのような見せ方をするかという点で難しかったためである。やはり、見せ方、デザインの部分では、事務局側は素人であり、竹内副座長のアドバイスも頂きながら取り組んできたが、形にするところで苦しんでいるうちに計画の方に我々自身も手足を絡めとられてしまったという状況がある。

そういう意味で、例えば、リリースの仕方としては、製本して1つの形にしてまとめて出すのも1つの方法だが、違う出し方も考えられるのではないか。例えば、市政参加編を作っていた時、紙ベースのものも置くけれども、基本はネットに上げる形にしていたし、「協働がおいしくなるKyoのレシピ帳」を作る時も基本はネットに上げる形にしている。全部をまとめて一気にリリースするのは難しいかもしれないが、例えば、少しずつ項目を分けて情報を上げていく方法ならハードルが下がるのではないかと思う。

<永橋座長>

5つ~6つくらいの話があったのではないか。

<竹内副座長>

ストーリーになっているのはそれくらいだが、前段や取組事例等でもっと増えている。

<永橋座長>

職員が気軽に読める読み物として、小分けにしてイントラネット等で目に触れられるようにすると無理がないのではないかという提案である。やはり1つのものとして完成させようと思うと、8割できていてあとの2割が大変なところもあるので、その提案はどうか。それならできるのではないかという北川課長の提案である。北川課長がどこの部署に移られても携われるということも込みで提案していただいたと思う。山下係長、それなら来年度にできそうか。

<山下係長>

以前、市民協働通信のような内部向けの情報を1~2枚ものにして定期的に出していた。そういうものが今はない。この計画でも庁内の推進体制に重きを置いているので、頻度は分からないが、そういうものを定期的に出した方が良いのではないかと個人的には思っている。そういう中で情報が出せると、まとまった冊子よりも気軽に読めるのではないかという気がしている。

<永橋座長>

第5章で新しいマネジメント組織として各部署で参加推進委員を作るとしているので、その集まりの中で少しずつ出して読んでもらう等、そのように小出しにして使ってもらってはどうか。皆で読み合ってもらうとか、意見交換をしてもらうような形で使っていただくと良いのではないかと思う。

<石井委員>

民間の百貨店などでは、店員に読んでもらいたい冊子等があると、全体朝礼の時にアナウンスで読み上げたり、全員が冊子を持って皆で読み合わせをしたり、そういうことを行って浸透させているので、そういうことも取り組んでみると良いのではないか。

<永橋座長>

どのように使うのかということから、どこをもう少しブラッシュアップするのか、あるいは一気に仕上げるのは大変なので、出せるものから出していく等、そのような形で活用していくということによろしいか。

<竹内副座長>

はい。よろしくお願ひしたい。

### 3 報告事項

#### ■ (1) 新たに設置された附属機関等について

<永橋座長>

それでは、続いて報告事項に移りたい。

全体フォーラムの最後の事案になるが、新たに設置された附属機関等について、資料 2 について事務局より説明していただく。

<北川課長>

冒頭にお詫びを申し上げたい。本来、フォーラムの会議の最後の報告事項として、前回の会議終了後に新たに設置された附属機関等について報告させていただくことになっていたが、ここ数回できていなかったため本日 15 件を一気に報告することになってしまったことをお詫び申し上げます。したがって、本日はまとめた形で報告させていただく。

(資料 2 について説明)

<永橋座長>

すでに市民協働推進室の方から高い見識を持ってそれぞれの部局とやり取りをしていただいたと思うが、皆様からお気づきの点があれば伺いたい。

#### ◆ 公募しない理由の公開について

<野池委員>

市民協働政策推進室として意見を出しているが、相手はどのような反応なのか。

<北川課長>

これは最終の結果だが、事前協議でやり取りをする中で、最終的に公募委員の検討をしていただいているところもある。今回は開催時期が迫っていて間に合わないため、次回から実施するというケースもある。

公募委員を入れないことについていろいろとやり取りをする中では、それぞれの事情があることは伺っている。ただ、我々としてはいろいろな課題はあるだろうが、市民に開かれた場にしてほしいというやり取りはしている。

<野池委員>

今まではやり取りも含めて見せていただいたと思う。今回は結果だけだが、やり取りや、なぜこの審議会は公開しないのか、その理由も含めて、一般に公開されていたのか。

<北川課長>

審議会等の統括情報では、会議の公開、非公開、開催の状況等はすべて掲載している。

<野池委員>

理由も含まれているのか。

<北川課長>

非公開の場合は非公開として取扱う。公募委員を「入れる」「入れない」の理由については上がっていない。

<野池委員>

非常に大切なやり取りをされていて、さらにこれから庁内の推進体制を整理していく中で、その理由も職員に理解していただくと同時に、推進体制の中に書かれている各区・各局で推進を図っていく際に、職員の方々はどのように乗り越えるのか、他市の事例をどのように調べるのかということも大事なので、これも1つの素材としながら前に進めていただければと思う。

<永橋座長>

野池委員の意見は、今回の改定計画の「施策7」に当たる。なぜ公募委員を募らないのかということだが、公募委員でなくても市民生活に関わることで言えば、何らかの形で市民が市政に関わる機会をもっと豊かに用意しようというのがこの「施策7」の趣旨だと思う。したがって、公募する、しないに留まらない働きかけも考えられるので、「施策7」の具体的な推進として、例えば、やり取りをもっと共有するとか、二条大橋の時のようなサロンのような形で参加する機会があっても良いのではないかと。地域の視点が大事だということであれば、それを訊く場を設けても良いので、もっといろいろな工夫ができるのではないかと。

もう1点気づいたのは、例えば「⑦京都市文化財公開施設指定管理者選定委員会」は一部非公開だが、これも専門的知識が必要なので非公開として「公募しない」とすることも

可能だと思う。しかし、実際は公募している。それに比べると⑤や⑥は公募して何が問題なのかと思うくらいハードルは低い。その辺りが不揃いである。たまたま 15 例もあると方向性が分かるので、なぜ⑦は公募できて、⑤⑥はできないのか不思議に思う。

<竹内副座長>

不揃いがあることが悪いということではなく、このように情報として出てくることによって不揃いがあることが分かる。それによって、「余地がない」「困難である」と言われていることも、こちら側から見ると余地があることが分かることがある。

その上で、もう少し工夫している事例もあるというアドバイスもできるので、そのようなやり取りが大事である。

<永橋座長>

例えば、これらの事務局を集めて、「⑦は公募しても問題がなかったのか」というような学び合いをしてはどうか。それが「施策 7」の具体的な推進になるのではないか。すぐに正しいことをしろというのではなく、それによって「うちの会議では公募できないと思っていたけれども、他のもっとハードルが高い会議が公募していた」ということに気付く等、そういうやり取りが庁内でできると良いと思う。

<竹内副座長>

いつまでも市民協働推進室がジャッジの基準を持っているのではなく、気づいた人を増やすにはどうすれば良いかという話である。

#### ◆ 専門知識を持つ一般市民の公募についての提案

<樋口委員>

非公開の理由が、行政がすることなので間違いがないのかどうか分からないが、言っている内容が正しいかどうかは誰が判断するのか。例えば、「①新築住宅の省エネルギー化推進に向けた検討会議」では「公になっていない技術上のノウハウを取り扱うため」となっているが、本当に公になっていない情報なのかどうかを誰が判断して非公開にしているのか。「公開されていない情報ではないから公開しても良いのではないか」と言える人が市の中にいるのか。担当部署がそう言ったから納得したということなのか、それに対して異議が出せるものなのかどうか気がなった。「～推進に向けた検討会議」ということで、それを広く普及させて平成の京町家を広めていくのがそもそもの会議の内容であれば、非公開

の理由はこれに合っていないのではないか。建築の仕事をしているので、言っている内容と取り組む内容がちぐはぐだと思った。

<竹内副座長>

市民委員を入れると、そういうところから議論がスタートするということである。

<樋口委員>

公募委員も一定の専門知識が必要であるなら、「建築士資格を有する市民を公募する」と指定したら良いのではないか。

<北川課長>

市民公募委員に期待するのは、確かに一般の一市民の立場で意見を言ってもらえるということがあるが、例えば、専門分野の知恵を活かしていただくこともあるので、一般の知識では議論するのが無理だということであれば、専門知識を持っている市民に参加してもらうことは可能ではないかと、我々もやり取りをしている。しかし、専門家を公募する勇気がなくて、なかなか進んでいないのが実情のようである。

<永橋座長>

今の提起については、改定計画の「施策4」の「施策の推進例」の2番目に「附属機関等の市民公募委員募集や、ワークショップの参加募集など、市民の参加を募る場合には、市民に期待する役割、市民のどのような知識、経験等がいかせるのかなどを、わかりやすく提示」と出ている。これはこれから各事務局に求められるので、今後、フォーラムでもこの審議会で推進室に頑張ってもらわなければならないが、互いの事務局が学び合うような場をつくれたら、少しずつ豊かな場として広がっていくと思う。それを期待したい。

他はいかがか。(意見等、なし)

## ■ 退任する委員から一言

<永橋座長>

それでは、最後に一言ずついただきたい。本日で2年間の任期を終えられる石井委員からお願いする。

<石井委員>

大変活発な議論ができるフォーラムだったと思う。ただ、1年目は何も知らずに参加したので、確かに専門的な知識は必要だと思うが、委員を2年間務めていると、いろいろと助けていただきながらも、一般市民でも専門的な知識がついてくる。そこを前提に「知識が必要だから一般市民はダメ」と言ってしまうと、人を育てることはできない。ここは「市民と協働して取り組もう」という意識のある人を育てようという趣旨を持って取り組まれているはずなので、緩やかな連携を市民ととっていただければ、新しい公募があった時に我々も気軽に参加できるようになると思う。

本当に1年目は大変でひたすら勉強会を行った。2年目の方には頑張っていたきたいし、1年目を目指して傍聴に来られている方もいると思うので、一生懸命勉強して、一生懸命賢くなって、いろいろな部会でいろいろな我が儘を言えるように頑張っていたきたい。

#### <西村委員>

私はいろいろなことを勉強させていただいたが、なかなか身にならずに、お役に立てたことは少なかったかもしれない。しかし、このフォーラムの皆さんは受け止めてくれる気持ちがある方々ばかりだったので、いろいろと取り組むことができた。

このフォーラム自体が、いろいろな市民がいたり、行政の方がいたり、いろいろな団体の方がいて協働の場だったと思う。このフォーラムの気持ちが市民全員に伝わって、行政の方にも各種団体の方にも伝わって、このような場がたくさんできれば協働が広がっていくのではないかと思う。

#### <竹内副座長>

野池委員、高田委員は、任期終了ではないが、替わられるので一言お願いしたい。

#### <野池委員>

任期ではないが、今回で退任という形にさせていただきたいと思っている。この委員会が大変であることは重々聞いていたので、自分もその役割を担って委員になった時に、これだけの回数と資料を見ながら議論することの大変さと併せて、このような場が京都市や、京都市をモデルとして他都市にも広がって、審議会や委員会とはこういうものだということになっていけば素晴らしいと思っていた。

個人的には100人委員会の事務局を務めており、お二人は100人委員会から市民公募委員として入っていただいているので、そういうところでもこの委員会は100人委員会を通じた市民参加の形も示せたのではないかと思う。いつもお二人に挟まれながら、私の方が「役に立っているのか」と思いつつも、できたことは大変良かったと思う。

<高田委員>

私は 2 年半お世話になった。昨年の秋に定期異動で報道の現場に復帰しており、本来、そこで替わるべきだったが、ちょうど計画を出そうという時だったので、そのまま放って交代するのも無責任ではないかと思い、年度末まで続けさせていただいた。

最初から言わせていただいていたのは、私の仕事柄、「情報公開と共有」ということである。それが最初で、それなしに市民参加もまちづくりも進まないと言わせていただいたが、それを「基本方針 1」に反映していただき、迅速かつオープンにすることを謳っていただいている。取材をしても、京都市の職員は本当にまじめに頑張っておられる。ただ、聞いても嘘は言わないが、都合の悪いことは口籠るところがあり、そういう点もかなり良くなってきたので、さらに一步踏み込んで、都合の悪いことも市民に伝えて、それによって逆に混乱を防いだり、協力を得られたりすることがあるということを強調させていただいた。そして、そういうところから市民参加やまちづくりが進むので、情報を積極的に出してほしい、そこをベースにしてほしい、それなしで市民参加は進まないということを言わせていただいた。そういうところを汲み取っていただいた計画になったと思う。

最後に 1 つ、この会議での永橋座長とのやり取りで出た話で面白いと思って、私も立つ鳥跡を濁すということ言えば、こういう計画は机上の話なので、具体的に個別の事業を 1 つ会議に乗せて、市民参加が本当にできているのかどうかを検証すると面白いのではないかな。例えば、四条通の歩道拡幅の話でも良いと思うが、歴史を追ってどのように進められ、市民参加ができたのか、できていないのか、できたのなら、なぜあのような混乱が起きてしまったのか、できていないなら、どうしてできなかったのかということ、個別の事業を取り上げて検証してはどうか。それを市民参加の方法を担当課と一緒に探っていく 1 つのモデル事例として検証し、そういうところで、このフォーラムが第三者機関として検証の機能を果たしても良いのではないかと思った。

1 つの条例を作るにも、なぜこのようにでき上がってきたのかということ、皆で学び合っ、今後の参考とするということである。成功した事例ならモデル事業になるし、失敗した事例でも、なぜ失敗したのかということ、学ぶことができるので、そういうことを今後、こういう場で行われたら、さらにランクアップしていくのではないかと思う。

<永橋座長>

京都新聞も紙面討論会のようなものを設けてほしい。

<高田委員>

行われたらすぐに京都新聞で取り上げたいと思う。今、そういう立場にあるので、また頑張ってもらえると良いかと思う。お世話になり、感謝している。

<永橋座長>

私からも一言述べたい。こういう日が来るのかと思うほど、長い6年間だったと思う。1年間はアメリカに行ったが、私も思い返すと1年目はほとんど発言できなかった。それでもやはり、このフォーラムが長きにわたって事務局のオープンな姿勢と歴代座長、副座長、そして委員の皆さんの自由闊達な雰囲気もあって、私も最後の2年間は座長として皆さんと計画の改定作業に従事できたと思う。本当に市民参加推進フォーラムならではの関係性やそれぞれの個性が輝くような運営は、これからも大事だと思う。事務局、あるいは今回はアルパックも入っていただいたが、各委員も含めて、このフォーラムは本当に大事だと思っている。

これからは私もOBとして、もしかすると傍聴席に座っているかもしれない。先ほどの手引きの話もしなければならぬと思うし、そういう意味では迷惑にならないように、今後も協力したいと思っている。フォーラムだけではなく、市民参加やソーシャルアクションは1人ずつが何かをしてこそだと思うので、自分もアクターの1人としていろいろなことに関わっていきたいと思う。

本当に皆様には感謝申し上げたい。

## ■ Youtubeの反応について

<永橋座長>

それでは、本日のYoutubeの状況はどうか。

<事務局>

本日は視聴が3名で、発言等々に付いた反応はない。

## ■ 傍聴者の意見

<永橋座長>

傍聴の方が5名おられるが、一言ずつ感想をいただきたい。このフォーラムは傍聴者も傍聴だけでは済まないというとんでもないフォーラムで、必ず発言を求められるので、順にお願いしたい。

<傍聴者1>

皆さんは2年間活動されたということだが、その前に長い歴史があると感じた。したがって、牛歩のごとく一步一步進めていくことを念頭に、我々市民もこの内容を知ることができればもっと面白くなると思う。

<傍聴者2>

初めて参加した。地域の豊かなまちづくりのためには、市民と行政が協働しなければならないと痛感しており、PTAや会社等の組織は簡単だが、地域が一番難しいので、ベクトルが合わない状態でいかに1つにまとめていくのかというところに興味を持って参加した。ただ、推進する側はプラスのエネルギーを持っているが、市民側に立った時にはここに来るのはなかなか難しい。私自身も地域で取り組む時の参考にさせていただきたいと思う。

<傍聴者3>

この委員の公募があった時にホームページを見たが、なかなか難しく分らなかった。本日は皆さんの議論を傍聴し、多少なりとも理解したいと思って参加した。しかし、相変わらず理解不足を感じた。

<永橋座長>

実際に見てやろうという気持ちで足を運んでいただけるのは本当に嬉しいことである。

<傍聴者4>

初めて参加して、皆さんが熱心に議論されているのを知り、予想以上に熱い議論を聴かせていただき、面白く拝見させていただいた。

<傍聴者5>

遅刻してしまい、最後の1時間くらいしか聴けなかったが、最後の報告に15の審議会が挙がっていて、なぜ2つしか公募されていないのかと私も疑問を持った。それを委員の皆さんがぶつけられて、事務局もそれを受けてきちんと答えられていたのを聴いて、実のある議論をされていると驚いた。

<永橋座長>

本当に足を運んでいただいて、このようにご意見を頂くのは大事なことであり、これもフォーラムならではのことだと思う。

それでは、事務局にお返しするので、よろしくお願ひしたい。

## 4 閉 会

### <淀野局長>

冒頭、私は今年度 7 回目の本会議と言ったが、例年と比べて 2 倍近い開催回数であり、精力的に取り組んでいただいたことに感謝を申し上げたい。

本日は今年度最終のフォーラムであり、また、この間、本当にお世話になった多くの委員の方々が今回をもって卒業されるということで、一言お礼を申し上げたい。

永橋座長をはじめ、石井委員、高田委員、西村委員、野池委員、それから本日はご欠席だが、高垣委員、初田委員、林委員の 8 名の皆様には本当に長い間お世話になり、感謝申し上げます。8 名の委員の皆様から頂いた発言の一つひとつが実践に基づき、また、市民参加の本質を突いたご発言、ご意見であったと思っている。また、その思いがこの計画改定版に結実したものと感謝している。

また、昨年 1 回目の会議の時に、私はこのフォーラムが役所の中で一番大変な審議会だと発言したが、その時に永橋座長から「それは違う。これは一番アクティブで、アグレッシブで、アフォーダブルな委員会である」と言われた。私も役所に入って 30 年以上経つが、本当にこれほどアグレッシブな議論に参加させていただいたのは初めてで、市民参加を担当する者として本当の勉強をさせていただいたと感謝している。

毎回、熱心に真摯なご議論をいただき、その一つひとつが市民参加の羅針盤であり、あるいは職員の心構え、あるいは京都市に対する熱い思いを示していただいたと思っている。

これからは、頂いた提言、あるいは改定計画に込められた理念や精神の一つひとつ形にして実現していくことがテーマになる。これだけ大きな武器を頂いた以上、全国トップ水準どころか、他都市にない先進的な市民参加を実現していくことが我々職員の大きな使命であると思っている。先ほど、石井委員や高田委員からもお話があったが、今のままではダメなので、これほど良い武器を頂いたのを活かすも殺すも我々職員にかかっているし、また、市民参加を主幹している我々部局の役割であるとも思っている。

今後とも皆様にはフォーラム委員として、また OB 委員としてお力添えを頂けるようお願いしたいと思う。委員の皆様には本当に熱心なご議論をいただき、感謝申し上げます。ごめいである。

### <竹内副座長>

時間が許されるなら、宿題だけ渡して納品されたら次は来られない地域計画建築研究所（アルパック）の方にも一言ずつ頂きたい。

<永橋座長>

確かに、いろいろとご苦勞いただいて、大変な作業をしていただいた。

<竹内副座長>

勝手なことを私たちは言ったけれども、まだ完成ではないので、一言お願いしたい。

<地域計画建築研究所（アルパック）>

市民参加推進計画は実行されなければならないと言われているが、そのことで市民一人ひとりがまちの中で楽しく暮らせる社会になっていくことを実現したいと思っており、皆さんの議論をお聴きしながら感じていたのは、市民参加や情報を公開してそれを「自分ごと」にすることで、市民とまちとの関係や市民同士の関係等、関係性が強まっていくことによって、そのまちで暮らすことが楽しくなるのではないかということである。この計画の中にはいろいろな手法が盛り込まれており、それを一つひとつすべてこなしていくことによって、楽しいまちにすることができるのではないかと思いながら、皆さんの議論を伺っていた。是非、これを実のあるものにしていきたいと思うとともに、それに関われたことに感謝している。

<永橋座長>

名残惜しい気持ちもあるが、以上で終了とさせていただきます。

以 上